

水の都 三島散歩

志村 良知

三島駅南口の観光案内所で水辺散歩の経路を聞く、女性の係員が親切丁寧に地図で説明してくれる。

駅のすぐ南にある町の象徴の公園、楽寿園は富士山の伏流水の湧水からなる小浜池を中心とした公園である。三島にはこれ以外にもいたるところに湧水と清流があり、水の都と自称しても誰も文句は言えない。

三島梅花藻（バイカモ）は三島で発見された水草で、初夏から夏にごく淡い黄色の梅の花の形に似た花を咲かせる。環境変化で何度か絶滅の危機に瀕しながら、地元市民の手で愛され守られている。実は、梅花藻で有名な源兵衛川の水質では藻にヘドロが付着するので、かなり頻繁に川に入って藻を揺さぶってヘドロを流す作業が必要なのだという。

近くにはセキレイの餌場があり、巨大なレンズを付けたカメラが並ぶ。カメラマンは皆孤高の人なので話しかけたりしない方がよい。

東洋美術品を集めた佐野美術館の近くに「三島梅花藻の里」という施設があり、ここでは手に取るような距離で鑑賞できる。

三島の水に鰻を放っておくと一味違ってくるとかで、三島には鰻の店が多い、地元民に聞くとそれぞれの推しがある。好みの店で鰻を食べて、三島大社にお参りする。境内にも大きな池がある。金木犀の巨木が好きだったが、枯れてしまった。大社から駅に向かう道もきれいな水辺に面しており、巾3メートルほどの水路には各家専用の石の橋がかかっている。

箱根峠を三島に下る国道一号線は江戸時代の峠道をだいたいのトレースしている。峠を下つてくると、右に裾を引いた富士山、正面に狩野川が作った平野と駿河湾、その向こうに伊豆の山々が眺められる。江戸を立った旅人はここまでくると、もうここは異郷だという思いも覚悟も強くしたことだろう。三島大社はその旅人を迎えるように東海道に面している。祭神は恵比須様で、私は沼津からフランスに駐在するにあたり、昇殿してお札を頂き、現地で神棚にお祀りしヨーロッパの商売も見て頂いていた。